



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったりパソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～「小原國芳先生『勉学の道』歩こう会」を開催～ 桜山地区公民館

桜山地区公民館の青少年講座「小原國芳先生『勉学の道』歩こう会」が1月25日に行われました。今回は桜山小学校4年生の児童・保護者がクラスレクリエーションとして参加し、全体で92名の賑やかな歩こう会になりました。



途中の険しい山道も越えて行く



最後まで元気に歩き通した参加者たち

「勉学の道」とは、東京にある玉川学園の創立者である故小原國芳先生が12歳のとき、実家(現在の南さつま市坊津町久志)から桜山尋常高等小学校(現在の桜山小学校)まで通学した片道12キロの険しい山道です。小原少年は朝の暗いうちに提灯に明かりをともして家を出て、石ころだらけの山道を一度も始業に遅れることなく桜山小学校まで通ったそうです。

歩こう会参加者は、久志から出発し、小原國芳先生顕彰の碑が建っている桜山小学校まで3時間以上かけて歩きました。毎日歩いて登校した大先輩の偉大さを改めて感じた1日となりました。

～1年生が高齢者と「昔遊び」でふれあい活動～ 別府小学校

別府小学校では、1月24日に1年生13名が校区老人クラブ・高齢者学級の方々と「昔遊び」のふれあい活動を行いました。今回は、子供たちの祖父母を含め、30名の高齢者の方々に参加いただきました。

子供たちは、グループに分かれ、「コマ回し」や「いろはかるた」「あやとり」など9種類の昔の遊びを体験し、おじいちゃん、おばあちゃんとの交流を心から楽しんでいました。



子供たちがお礼のダンスを披露



童心に帰って「あやとり」で一緒に遊ぶ

別府地区公民館の青少年講座も兼ねており、高齢者の方々も童心に帰って子供たちと一緒に全部の遊びを体験し、1年生との触れ合いに笑顔がこぼれていました。

その後は、全員で紙飛行機を作って、誰が一番遠くに飛ばせるか紙飛行機大会をして、こちらも大変盛り上がりました。校長先生の飛行機が一番遠くに飛んだようです。

最後に、子供たちがお礼の気持ちを込めて「bling-ban-ban-born」のダンスを披露しました。和やかな雰囲気の中、たくさんの笑顔がはじける交流活動になりました。

～学校給食週間に生産者を招いて食育の交流授業～ 市内小学校

様々な食材を生産する方々をお招きして交流授業が行われました。

枕崎市内の小学校では、1月24日から「全国学校給食週間」を中心に、給食センター栄養教諭の椎葉先生と地元の

別府小学校

別府小学校では、1月22日に野菜生産農家の山崎己代治さんと黒岩豊作さんをお迎えして、全校児童による給食感謝会が行われました。はじめに各学年の代表が感謝の手紙を発表しました。どの手紙も給食に携わってくださる方々への感謝の気持ちが伝わってくる内容で、出席の方々も感激の面持ちでした。そのあと、椎葉先生が当日の給食(カレー)を作っている様子を動画で紹介していただき、山崎さんと黒岩さんからは、野菜作りの楽しさや苦勞を話していただきました。子供たちも給食についてたくさん学ぶことができ、素敵な給食感謝会になりました。



感謝の手紙を贈る児童代表

桜山小学校



枕崎牛について説明する山下さん

桜山小学校では、1月24日に椎葉先生と鯉節生産者(水産加工組合)の高倉洋介さんをお迎えして、4年生との交流授業が行われました。給食の歴史や役割、食材が自分たちのところに届くまでの工夫や苦勞を学ぶことができました。

また、1月29日には3年生が椎葉先生と枕崎牛を生産されている桜ファームの山下貴史さんをお迎えして、給食の歴史や、枕崎牛が育つまでを教えていただきました。1頭の牛を出荷するまで2年4カ月かかることなどを聞き、「農家の方の努力や工夫があって、自分たちがおいしくいただいているんだな」と考えるととても良い機会になりました。

立神小学校

立神小学校では、1月27日に椎葉先生と立神校区の枕崎牛生産農家である宮路真洋さん、JA畜産部の斉野孝博さんをお招きして、3年生児童との交流授業が行われました。宮路さん・斉野さんはパワーポイントや資料を準備され、枕崎牛の生産から消費者に届くまでの流通のことや、牛は成長ごとに餌が異なることなど分かりやすく説明していただきました。

この日の給食は、枕崎牛生産農家の方々から提供された枕崎牛30kgを「枕崎牛のきんぴら」に調理し、市内すべての小中学校に提供されたものでした。児童は交流給食を通して、枕崎牛を味わい、生産に関わる方々へ感謝して食事をする大切さを学んでいました。



枕崎牛のことを質問する児童

枕崎小学校



交流授業の様子 「野菜が好きな人！」

枕崎小学校では、1月31日に地元食材の生産者との交流授業が行われました。野菜生産農家の山崎己代治さんをお迎えして、給食センターの椎葉先生と一緒に1年生の2クラスで「すききらいなく、なんでもたべられるようになろう」をテーマに話をしてもらいました。

まずは「箱の中身は何?ゲーム」を行い、箱の中の野菜を感触だけで当てるゲームで盛り上がりました。山崎さんからは自分で作った様々な野菜についての紹介があり、どのように丹精込めて作っているのか子供たちに話をしました。最後には、持参いただいた野菜を触ったり、匂いをかいだり子供たちの野菜への興味が高まりました。